

平成26年12月期 決算説明会



平成27年2月19日
大倉工業株式会社

当社の概況

社名 大倉工業株式会社
Okura Industrial Co.,Ltd.
本社所在地 香川県丸亀市中津町1515番地
代表者 代表取締役社長 高濱 和則
設立 昭和22年7月11日
資本金 86億1千9百万円
発行済株式数 62,074,351株
従業員数 1,931名（連結子会社13社含む）

【平成26年12月末現在】



目次

1. 平成26年12月期決算の概要
2. 平成27年12月期の業績予想

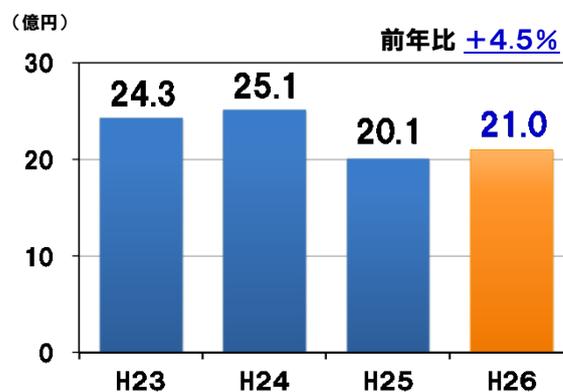


1. 平成26年12月期決算の概要

連結売上高 通期実績



連結営業利益 通期実績



売上高・営業利益

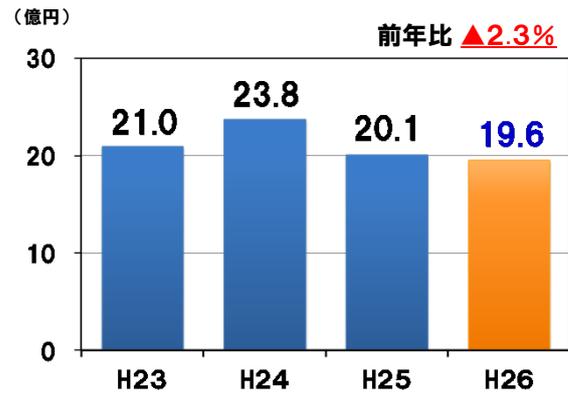
【売上高】

- 建材事業が増収
- 新規材料事業が大幅に減収

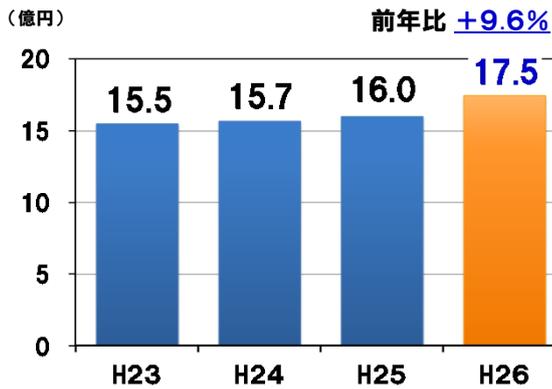
【営業利益】

- 合成樹脂、新規材料事業が減益
- 建材事業の赤字は大幅に縮小

連結経常利益 通期実績



連結当期純利益利益 通期実績



営業外・特別損益等

【営業外損益】

- 為替差益 円安の影響により 86百万円
- 持分法による投資損失
無錫大倉包装材料有限公司 149百万円
(人員削減するも受注減と修繕費等増加により損益悪化)

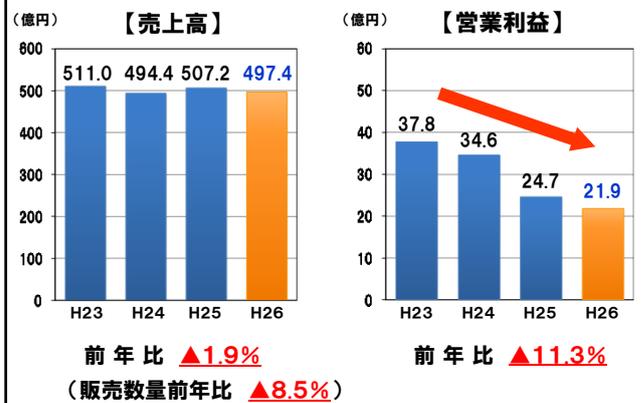
【特別損益等】

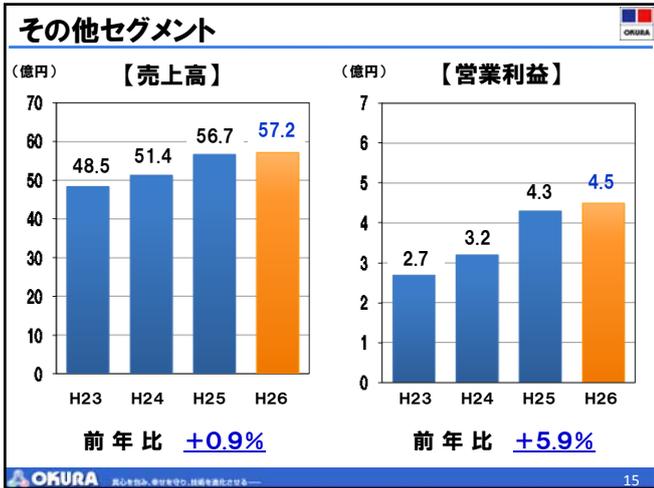
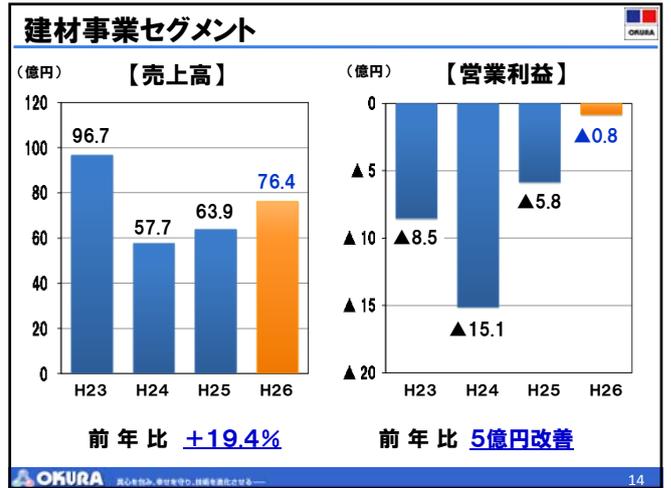
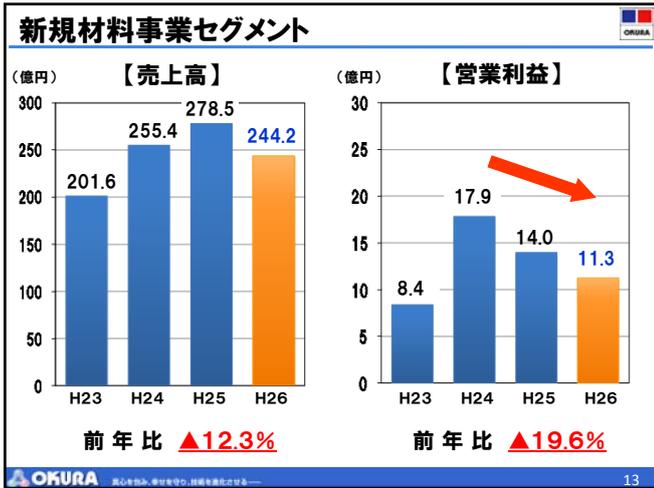
- 固定資産除売却損
新工場建設に伴う既存設備の撤去等 341百万円
- 法人税等調整額
繰越欠損金解消による税効果 △414百万円

【当期純利益】 税効果により増益

セグメント別の概要

合成樹脂事業セグメント





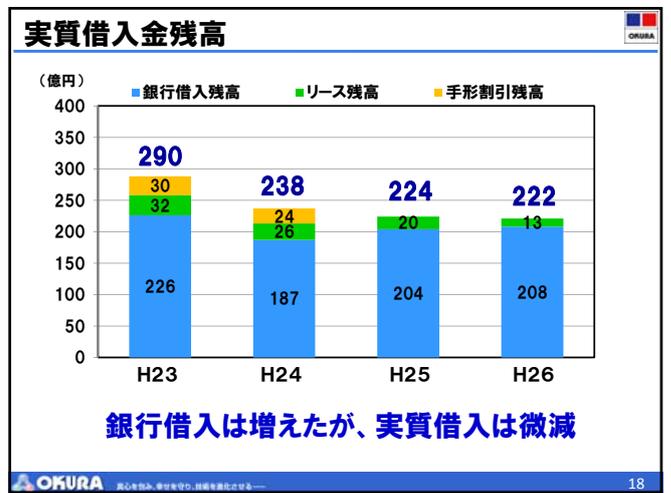
キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フロー計算書

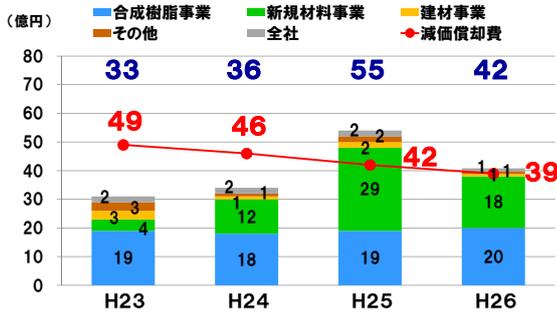
	H23年	H24年	H25年	H26年
現金及び現金同等物期首残高	75.5	77.4	74.0	78.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	55.4 (57.7)	85.1 (91.8)	37.9 (62.0)	54.4
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲36.8	▲38.5	▲38.5	▲59.0
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲16.4 (▲18.8)	▲50.6 (▲57.3)	3.8 (▲20.3)	▲6.6
現金及び現金同等物期末残高	77.4	74.0	78.3	67.3

※()内は、手形割引等考慮後の実質キャッシュ・フロー

新工場建設等の投資が増加



減価償却費及び設備投資（工事ベース）



H25-26は新工場建設により減価償却費を上回る投資

2.平成27年12月期の業績予想

平成27年業績予想

マクロ見通し

日本経済は、消費税増税前の駆け込み需要の反動減が長期化しているが、緩やかに回復

売上高

新工場の本格稼働もあり 増収

営業利益

新工場の本格稼働と建材黒字化により 増益

平成27年業績予想

(億円)

	上期	下期	通期	前年
売上高	425	460	885	875
営業利益	7.5	16.5	24.0	21.0
経常利益	6.0	16.0	22.0	19.6
当期純利益	3.0	11.5	14.5	17.5

営業利益・経常利益は増加するも、法人税法上の繰越欠損金が解消し、法人税増加により当期純利益は減少

平成27年業績予想 セグメント別売上高

(億円)

	上期	下期	通期	前年
合成樹脂事業	240	250	490	497
新規材料事業	120	140	260	244
建材事業	40	40	80	76
その他	25	30	55	57
合計	425	460	885	875

合成は数量横ばい、原料値下がりによる売価ダウンにより減収。
新規は新工場を中心に増収。
建材は住宅着工数低迷により小幅増収。

平成27年業績予想 セグメント別営業利益

(億円)

	上期	下期	通期	前年
合成樹脂事業	10.0	14.0	24.0	21.9
新規材料事業	4.0	9.0	13.0	11.3
建材事業	0	0.5	0.5	▲0.8
その他	2.0	2.0	4.0	4.5
調整額	▲8.5	▲9.0	▲17.5	▲15.9
合計	7.5	16.5	24.0	21.0

合成は原料値下がりと売価引下げ間の価格差改善により増益。
新規材料は新工場本格稼働で増益。建材は最小限の黒字化。

グループ基本方針

OKURA 真心を込め、夢を叶え、信頼を築かせる

25

大倉工業グループの目指す姿

「社会から信頼される企業」
であり続ける

成長分野にソリューションを提供できる
「技術優位な企業集団」

OKURA 真心を込め、夢を叶え、信頼を築かせる

26

第四次中期経営計画の基本方針

全社戦略は
国内市場は「量」、海外市場は「質」

重点課題

① 建材事業の黒字達成 ② ステークホルダーからの信頼回復
③ 現場力や労働生産性の向上 ④ 要素技術の深化と獲得

↓

収益基盤の安定強化

OKURA 真心を込め、夢を叶え、信頼を築かせる

27

平成27年度の基本方針

OKURA 真心を込め、夢を叶え、信頼を築かせる

28

全社方針

収益基盤の安定強化 により 信頼獲得 を図る

全社最適

↑

事業部最適

↑

拠点最適

×

マーケットイン
(ユーザー、市場目線)

↑

プロダクトアウト
(製造者目線)

● 品質、技術面での横串機能を強化
● 既存の設備・技術・考え方からの脱却

OKURA 真心を込め、夢を叶え、信頼を築かせる

29

【合成樹脂事業】

「量の拡大」の追及と不採算事業・製品の再構築

「量の拡大」を最優先し、
そのための再構築と生産技術向上を図る

- 新工場での医療品等の新たな用途分野への拡販
- 不採算製品は採算ベースにのせるため縮小均衡
- 技術の横串機能の充実、事業部全体で生産技術向上

OKURA 真心を込め、夢を叶え、信頼を築かせる

30

【合成樹脂事業】「量」の拡大

関西オクラにて衛生環境を備えた新工場が稼働



投資額:19億円 H26年6月生産開始
 ほぼ計画どおりに立上がり、今後早期にフル稼働を目指す。

【新規材料事業】

精密溶融押出・精密塗工技術を駆使し、
 タッチパネル市場での高度な要求品質に対応

投資案件を早期に軌道にのせる

- 仲南G棟は安定的な品質での量産確立
- 新ライン増設による偏光板加工拠点としての工場強化 (ホ・IL・IX)
- 塗布型透明導電フィルムは事業部移管、安定操業へ

※昨年より遅延している新製品での認定は取得時期が見えないため、
 保守的に計画に織り込まず

【新規材料事業】「質」の追求

液晶ディスプレイ向け光学フィルムの新しい生産技術に
 対応した工場 (仲南G棟)



投資額:33億円
 H26年11月生産開始

【建材事業】

パーティクルボード事業の本格復興と
 建装材事業の構造改革により黒字化へ

営業黒字化を確かなものに

【パーティクルボード】

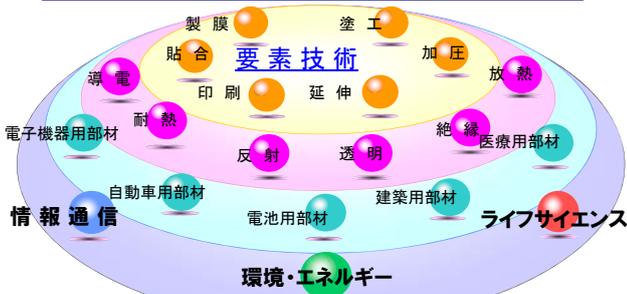
- 構造用・フロア製品の拡販によるシェア拡大
- パーティクルボードの使用領域を広げ、
 環境変化に左右されない事業構造への変革
- 新分野 (コンテナ内装用等) の開拓

【化粧板】

- 数量を確保しながら製販の合理化

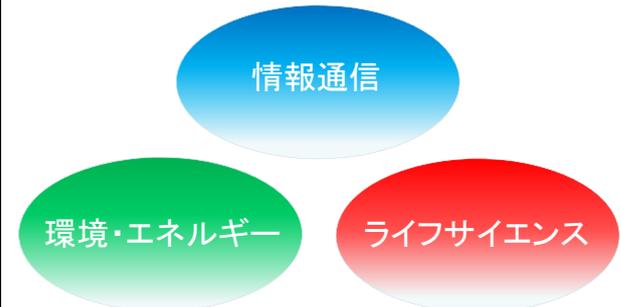
【R&Dセンター】

要素技術の更なる深化を進め、成長分野での
 事業拡大と機会探索



【R&Dセンター】 開発の方向性

伸長が期待される分野に向け開発を進め
 事業化へつなげる



本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。